

福祉の歴史 2単位

担当教員: 浅井 純二

福祉の歴史を通観し、現代社会における諸相の理解につなげて学ぶ

講義目的・到達目標

前近代から現代までの福祉の歴史を通観する

前近代から現代までの福祉の歴史を通観する中で、救済が必要な人々はそれぞれの時代においてどのように生きてきたのかを考え、時代の変化と社会福祉の関連を理解する。

現代社会における諸相を歴史から学ぶ

現代は格差社会と呼ばれセーフティネットが危ういといわれる。現代の社会福祉を考えるうえで、歴史から何を学ぶことができるのかを追及していく。

講義の構成

講義の流れ

講義では前近代から現代までの福祉の歴史を通観する。社会福祉の歴史といえば、市販テキストの多くは、明治以降から記述される傾向がある。確かに権利としての社会福祉が確立されていない前近代は、社会福祉という言葉の持つ意味も異なってくる。しかし、前近代の相互扶助や様々な救済制度は、現代の社会福祉と全く無関係ではなく、我々が前近代に生きた人々から学ぶことは無数に存在する。例えば、江戸時代に視覚障害のある人々はどのように生きてきたのであろうか。盲僧と呼ばれる人々が存在したのか、あるいは当道座制度は、どんな救済となったのか。さらに、こうした制度や救済から漏れてしまった人々はどのように生きてきたのであろうか。現代は格差社会と呼ばれセーフティネットの存在が危ういといわれる。歴史から何を学ぶことができるのかを追及していく。

1 科目概要(ガイダンス)

2 前近代の社会福祉

3 近代の社会福祉

4 現代の社会福祉

5 現代社会の諸相:歴史から学ぶ

6 まとめ講義

7 科目修了試験
(筆記レポート作成)
ゲスト講師の講義
(特定分野など)

講義のポイント

講義は、随時視聴覚教材を使い、グループワークやミニレポート作成も行う。また、ゲスト講師を招き、特別講義を予定している。

受講するにあたって

- ①事前学習の
すすめ 歴史の用語がわからないなど基礎的知識がない場合には、高等学校レベルの日本史教科書を通読して受講されることをお勧めする。
- ②参考図書 特に指定しない。
- ③評価基準 講義の内容を受け止め、設問について規定の字数で自分の考えを表現すること。
- ④より学びを
深めるために 特に指定しない。